

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム  
第 9 回会合 議事録

1. 会合の概要

日時： 2021 年 11 月 8 日(月)17:00～19:00

会場： オンライン

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)  
一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数： 20

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

明尾 洋一 サイボウズ株式会社  
飯田 陽一 総務省  
金海 好彦 日本電気株式会社(NEC)  
兼保 圭介 NEC  
上村 圭介 大東文化大学  
実積 寿也 中央大学  
城島 達哉 楽天コミュニケーションズ  
白壁 角崇 総務省  
Yuji Suga Internet Initiative Japan Inc.  
高須 正和 Switch Science  
高松 百合 JPRS  
立石 聡明 JAIPA  
濱口 智美 総務省  
浜田 忠久 JCAFE  
堀田 博文 株式会社日本レジストリサービス(JPRS)  
本田 聖 個人  
前村 昌紀 JPNIC  
森口 友里 株式会社インターリンク  
森下 大 総務省  
山崎 信 JPNIC

司会進行： 前村 昌紀(JPNIC)

議事録案作成： 山崎 信(JPNIC)

## 2. 資料：

1. プログラムタスクサブチーム振り返り
2. イベントサブチーム振り返り

## 3. アジェンダ：

### 3.1. 本日の打合せの目的確認

- 前回・前々回議事録案の確認
- IGF2023 ホスト（政府）としての検討状況の共有
- IGF2021 国内事前会合の振り返り

### 3.2. 前回議論の振り返り

- 第7回会合、第8回会合の議事録案は、まだ作成中である。

### 3.3. 宿題の進捗確認

No	状況	内容	担当	期日	実績
14	完了	第6回会合の議事録案および録画のラストコール実施、公開	山崎	議事録：10/8 録画：10/11	10/14
15		第7回会合の議事録案作成	山崎		
16		第7回会合の議事録案および録画のラストコール実施、公開	山崎		
17	完了	事前会合開催アナウンス実施	山崎	9/28	10/7
18		第8回会合の議事録案作成	前村		
19		第8回会合の議事録案および録画のラストコール実施	山崎		
20	完了	事前会合用カウントダウンタイマー調達	山崎	10/26	
21	完了	事前会合発表者との連絡用 Slack 設置	山崎		
22	完了	事前会合発表者に Slack に入ってもらおうよう連絡	山崎	10/20	
23	完了	D2-3 プログラム現地登壇者の有無及び人数を確認	立石	10/20	
24	完了	オープニング・クロージング登壇者確定	立石・前村	10/22	
25	完了	D2-1 日本のインガバ活動組織化...プログラム内容・登壇者確定	立石・前村	10/22	

26		D2-1 日本におけるマルチステークホルダー...概要紹介文作成	前村	10/19	
27	完了	事前会合アンケート作成	高松		
28		事前会合動画編集公開	山崎		
29		事前会合レポート作成	山崎	12月上旬	

### 3.4. IGF2023 ホスト（政府）としての検討状況報告

### 3.5. IGF2021 事前会合の反省

#### 3.5.1. プログラム検討サブチーム

#### 3.5.2. ステークホルダーエンゲージメントサブチーム

#### 3.5.3. イベントサブチーム

#### 3.5.4. 全体的な内容、成果

### 3.6. 本格体制をどうするか

### 3.7. IGF2021 カトヴィツェへの参加計画共有

### 3.8 本日の議論を受けた Todo 確認

### 3.9. 次回打合せについて

### 3.10. その他

## 4. 議論の概要

冒頭で前村氏が司会をすることについて異議がないか確認が求められたが、特に異議はなかった。次いでアジェンダに沿って議論が行われた。

### 4.1. 本日の打合せの目的確認

特にこれまでと違う点はないため、省略された。

### 4.2. 前回議論の振り返り

山崎より、第7回、第8回会合議事録作成が遅れている旨説明した。特に質疑応答はなかった。

### 4.3. IGF2023 ホスト（政府）としての検討状況報告

飯田：IGF 2021 の準備の方は進んできて、ちょっと今の状況だと政治家が出るのは難しいかもしれないが、高ランクの幹部が現地参加できればと思っている。

それと主催するオープンフォーラムもあるし、いくつか呼ばれていて、そういうところで日本の考え方や現状を話してこようと思っている。そういう話が再来年の日本開催に関心を持ってもらったり、結び付いていったりするような形にしていきたいと思っている。

皆さんのところにも届いているかもしれないが、イタリア IGF と、それからもう一つどこかからこのタイミングで国内 IGF イベントの案内が来ていたと思うので、後で共有したい。

我々もこの前国内イベントちゃんとやったわけだし、だんだんと海外にアピールしていけるようになっていければと思っているので、引き続き内部の体制の整備と、それから更に官民の体制の整備は徐々にという感じになると思うが、慌てても仕方がないので、まだ二年後ということもありしっかり議論して進めていければと思っている。

### 4.4. IGF2021 事前会合の振り返り

#### 4.4.1. ステークホルダーエンゲージメントサブチーム

前村：メーリングリストの方で見ていただいた通りではあるが、やりたいことというのか、事前イベントに向けてスキルアップして臨みたいといったことに関しても道が見つからなかったし、その上で従来プログラムは非常に充実したプログラムが作れたところ、エンゲージメントに関しましては皆さんの活発化チームの皆さんからリーチアウトしていただいた風なところに留まったと思う。この辺は組織だったエンゲージメントに至らなかったというのは反省点として残っている。ちなみに参加者数はいくらだったか？

山崎：参加登録者数は 123 名で、参加者数は 1 日目、2 日目とも 60 から 70 程度であった。

前村：この数自体はわりといい方だったと思う。これは取りも直さず拡散していただいた方々の努力やよいプログラムが編成できたということも非常に大きな要因だったと思う。今後エンゲージメントをどういう風に組み立てていくかということに関しては、引き続き本活発化チームの活動と言うか、国内の活動のスケールアップに向けた作戦として、いろいろと相談させていただきたい。

エンゲージメントサブチームに関して何か質問はあるか。なければイベントサブチームの方の報告に行きたいと思う。

#### 4.4.2. イベント（ロジ周り中心）検討サブチーム

高松：イベント当日はプログラムチームメンバーとして全体司会をやっていたが、イベントサブチームのメンバーとして振り返りを報告する。イベントチームは私と今回会合にも参加している本田さん山崎さんそして前村さんの 5 人でやっていた。今日の資料はメンバー内で話をした上で作成したものになっていて、次回以降のイベント開催時の検討材料として使ってもらえるとよいかなというつもりで作っている。幾つかピックアップして伝えられればと思っている。まず一番目に全体的にというのがありますが、こ

の部分がチーム内では一番重要な反省点と書いて書いている。チームの中でプログラムチームとどちらが何をどこまでやるのかといったところが曖昧で、お互いに躊躇したり、直前になって結構イベントサブチームの方から登壇者の方に直接アプローチをすることになったりと言ったことがあり、そういったところを明確にしてから進めるべきだったという意見があった。二番目はアナウンス文面で、書いてある通りということで、青字が反省点で赤字がよかったものという分類になっている。事前準備と当日対応についての振り返りもしたが、サブチーム内での役割分担確認や連携の仕方と、当日登壇者とサブチームの間で残り時間についてなどのやり取りを行い、主にその二つに分けての反省を行った。サブチーム内では事前に認識合わせ（どういう風にするかといった確認）をオンラインで行ったが効果的だった。逆に登壇者とサブチームの間では、オンラインでも集まる必要があったかどうか分からないが、認識合わせがなかなかうまくできていなかったという部分を反省点として挙げている。他のチームメンバーは Slack を使い慣れていたが自分が慣れていなくて、互いの連携が少し難しかったとか、登壇者に Slack の用途がきちんと伝わっていなかった部分もあったのではないか思い、次回使う際には共通の連絡手段として何を使うのか、どういった目的でどういった時に使うのか定期的に確認してほしいといったものを、あらかじめお互いに共有しあっておくべきだったかというのを反省点として挙げた。進行サイドはうまくチーム内で考えたこととして、良いこととして挙げた。8 番からアンケート結果を踏まえた内容になるが、開催期間・時間についての内容である。まず今回 3 時間か×2 日間という形で今回実施したが、それに関してアンケートで不満／悪いという言い方をした人は一人もいなかった。回答数は 47 だったが、非常に良かったなと思った点である。開始時刻は、概ね満足だったという回答だったが、少数だが良くなかったというご意見もあり、平日よりも土曜日の方がいいという意見や、ハイブリッドや現地開催、あと日中に終わらせてほしいという人がいた。これは次回以降どういった人達をターゲットにより巻き込んでいきたいのか、そういった部分で改めて検討していくべき点かと思うので、アンケートの結果として今回振り返り事項に挙げているが、次にイベントを開催する時には、企画チームの方で目的に合わせた内容を検討するのが良いと思っている。ゲストの方も色々あったが、そこは書いてある通りである。最後のその他のところになるが、タイムマネジメントは結構大きな問題だとチーム内では認識している。山崎さん中心に対応した状態だったので、私も色々アンケートとかの案を考えたりしたが、正直稼働時間がなかなか大きかった。そのため、やりたい理想に合わせて外から専任の人を付けたりという風な対応を、次回以降のイベントで行っていくのか、ボランティアとかそういった形では限られたリソースしかないのか、できる範囲の中で行うのか、そういったところは考えてもらえるとよいと思う。

先に紹介した方が良かったかもしれないが、こちらがアンケート結果である。次回に向けた反省点として、所属組織種別に民間企業（インターネット技術コミュニティを除く）というのがあり、インターネット技術コミュニティが何かという解釈が難しいので、次回以降もう少し説明を付けたいと考えている。イベントに参加したきっかけは、各メーリングリストから来た人もいるが、意外に人づてに聞いたという人が回答者の約半数になっており、誰から聞いたのかが気になった。これはとても喜ばしいことだと思ったが、インターネットガバナンス系イベントへの参加が初めての人が 44 パーセント、半数弱だが出たということで、新しくこの世界に場所を踏み入れた人がいたと観測できるかと思う。後はイベントに参加した理由を見ると、結構インターネットガバナンスに関心のある方は多いのではないかとということと、今回大変面白いセッションが色々あったということで、プログラムに興味があったためと回答した人も多くいた。参加した日程は、両日参加の方が半数以上という状況であった。あくまでもアンケー

トに回答者の範囲内ということになる。回答者 47 名によれば、どのセッションもなかなか拮抗して面白いと思った人が多かったという状況だった。時間帯などによるのだと思うが、参加できなかったセッションがあるというのが全体的な傾向なのかと思った。全体としては役に立ったという印象が非常に大きかったというのが結果からも分かる。続いて自由記述で色々といただいており、次回開催時の企画チームなどに共有する形で生かせればと思っている。私からは以上だが、本田さん、山崎さん何か付け加えることはあるか？

山崎：私からは特にない。

本田：いろいろと不測の事態があったりしたが、柔軟にイベント当日までの運営にこぎつけたかと思う。どの辺までがイベント進行に当たるのか、それともプログラムチームからインプットが必要なのかというところで、実際にやってみて、こういうインプットが必要だということがあったりしたので、それは不可避だったかもしれない。ただプログラムの仕立てのところでイベントサブチーム内で個別打ち合わせを持った際に出たが、どこまでプログラムチームが仕立ててくれるかっていうところで、本来であれば各コーディネーターもしくは各発表者の方が自律的にやっていただくのが一番なのだが、期限内にこちらの期待したこと、例えば資料を出してもらえなかったなど、セッション内の時間割、どういう段取りでやるかというところのインプットがなかったので、やはりそのところでイベントチーム側がどうしたらいいのかなといったところが色々あった。

高松：イベントサブチームからの振り返り報告は以上。

#### 4.4.3. 全体およびプログラム検討サブチーム

前村：それではプログラムサブチームにお願いしたいが、先に全体的な内容や成果を話すことにしたい。ここに関してはフリーフォーマットで思ったことを言う感じにしようと思う。では本田さんに口火を切っていただくということをお願いしたい。

本田：全体を客観的に見た時に、プログラムの募集も比較的短い期間の中であれほど充実した内容と、かなり充実したトピックが色々あって良かったと思う。やはりエンゲージのところ、アンケート回答結果に大学生からのコメントがあり、もっと若者を引き込むだったら、そういう学術、要は大学などからもっと声掛けて良かったのではないかという意見もあった。確かになるほどと思っていて、情報系の学生は技術面から入るが、運用面、ガバナンス、マネジメントというところではなかなかリアルな話を聞く機会がないので、大変良かった。確かに技術だけが全てではないので、文系理系かかわらず色々あると思う。例えば総合政策的な学部もあるのかもしれないし、社会系とか法学、それぞれ分野は多分あると思うが、なるべくそういった幅広くエンゲージを広げていくこと。まずは学術というファクター、後は一般企業からも来ていただいた、エンタープライズからも来ていただいたというところで、何なのか、経団連のような大きなところではなくて、もう少し狙いを定めて、各企業と言うかいわゆる領域、ビジネス領域に合わせて広げていくと言うか、要は狙いを、エンゲージを深めていくことが必要かと思った。やはり大元の IGF の認知を日本社会全体に広めるっていうところを達成するには、やはりもっと範囲を広げた方がよいと思う。

前村：ありがとうございます。私が次いでコメントしたい。IGF（の認知）を広めると今本田さんは述べたが、何のために IGF があるのかというところは、結構哲学論争かもしれないが、私が思うにそれが世

間の皆さんがインターネットを使う上で役立つことなのかなと思う。その上で先ほどの学生のインプットというのはたくさんの文字数で書いていただいているが、それだけ期待していただいているということだろうし、今、堀田さんの話の中にもあったが、技術系にしても政策系にしても、とにかくインターネットというものを議論したいという時には他のセグメントの人たちも混ざって、そういう時にはこういったIGF活動に来るといような、下手ってというのは理想系だという風にも思うし、そうあるべきだなというように感じた。そういう風になっていけるといいなと思ったが、いずれにしても何かこういう期待をいただいているっていうのはとてもありがたいことだし、その上でそれに答えていくのには色んなものがまだ足りないのをどうしていくのかというのが一つ課題として残るのだなという風に思った。

高松：皆様に伺いたかったのが、全体として、インタラクティブという登壇者同士のパネルは、パネルの中、および参加者とパネルの人達とのやり取りなどの印象はどうだったのかということである。個人的にはパネルの中の話はどのセッションもとても面白くて、時間が本当に足りずもっと欲しいなと思うものばかりだったが、その分参加者とのやり取りが難しかった、時間が取れていなかったという印象を受けた。質疑ができなかったとしても、時間が取れなかったとしても、発表者の意見には賛同など思った時にリアクションボタンを使うなど、参加者を巻き込むような形にできたら、チャットで書き込まなくても意思表示がもっとできるとよいのでは、と思った。日本人の特性だと、どうしても発言すること自体がハードル高いので、まずは少しずつリアクションをするみたいなどころから始めて、次は発言できなくてもチャットにその意見面白いですねとか書き込んでもらう、最終的には発言をどんどんしてもらえるようになるとか、そういった仕掛けも今後2023年およびもっと先に向けてできるとよいと思った。

立石：反省点ばかりで申し訳ないが、できていないものを全部てんこ盛りでやってしまったので。仕方がないことではあるが、50分という中では皆さん消化不良で、次(続きのセッションを)やりたいというのがよいのか、来週に海賊版の話のうち協会でも懲りずに沖縄(のイベント)でやるが、内容によると思うのだが。やっぱり90分ぐらいないと、4人来るともう無理という話で、だからというわけではないが、来週開催のイベントでは二回に分けることになっている。海賊版サイトでそれは必然というか偶然そうなったのだが、50分しかできないのであれば2コマ取るとか、そういう風にしてももう少し長くやってもよいのかなと。しかしそれならIGFではなくて、別途海賊版だけで個別のセッションを、IGFを冠にしたイベントとして国内でやるという形にしてもよいのかなと。色々思いながら、先ほど高松さんが言っていたように、やはり日本人はそう簡単には喋らないので。だからというか、Teamsやこの手のツールを見ても、学生に教えていてもそうなのだが、オンラインでやっていて後はこの場でこういうチャット、チャットではないけど、選択肢でアンケートを取る位の機能はあるが、そういったものをもうちょっと見つけてくるかなんかして、そういうひよっとすると凶星でなんかそういうのあったりするのかもしれないですけど、使うというかそれが精いっぱいなかなかそのテクニカルなところも私も追いつけて行けてないので、それができなかったと言うと、全体的なあり方としてさっき言ったどうしても時間が足りないのは多分他でもあったと思うんですよね。お聞きして。とにかくできるだけ一人でもたくさんの方にこういうことが起きてると知っていただきたいというのでやるんだとすると、もうちょっと深掘りできるようなのはさっき言った90分にするのかコマをもう一個増やすのかみたいなに関してやってもいいのか悩ましいところです。別にやるとなるとそれはそれで大変で、じゃあやり

ますかって言うとなかなかやれないというのと、そういう意味じゃ何だろう、昨日ですが、ボランティアベースではどうしても限界が来るので、そこをどう取るのかと。それでとりあえず、23年に日本でやるという話で、そこはコマーシャルちょうだいねと言ってどっかが出してくれるところだってなんともなるかもしれないですけど、ではとりあえず23年まで、再来年にはそういう風にやってみるっていうのもいいかなって。二十年以降はもう一回、もしスポンサーが減ったら考えるっていうのでいいのかもしれないですけど。時間使ってやり方を試行錯誤することをやってみる。すいません私も本当に反省点の塊みたいな感じで本当に申し訳ないんですけど、そういう風にやってみてもいいのではないかなと感じてます。以上です。

#### 4.5. Todo 確認

- プログラムサブチームについては上村さんにお任せする（前村）
- 体制論については考えて何か出したいと思う（前村）

#### 4.6. 次回打合せ

前村氏より、次回打合せの日程について、11月29日（月）17時開始としたいと発言したところ、特に反対意見や代替案は出なかったため、その日時で確定した。

#### 4.7. その他

前村より、他に情報共有や言っておかなければならないことがあるかどうか確認を行ったが、特に発言はなかったため、チーム会合を終了する旨宣言した。

以上